

工藤聡 コンテンポラリーダンス・クラス

2016年6月20日(月)・24日(金) 神戸大学

頭から転げ落ちた身体が、
潜るように、
泳ぐように。



Photo : Håkan Jek



QRコード
モーション・クオリアによるフロアワークのクラス動画

フロアワークは、コンテンポラリーダンスには欠かせないテクニックです。この度、スウェーデンを拠点に活動する工藤聡氏をお招きし、独自のセオリー「モーション・クオリア」に基づくクラスを開催いたします。シディ・ラルビ・シェルカウイのカンパニーやスウェーデン王立バレエ団でも行われたクラス。分かりやすい解説で、初心者にもなじみやすい内容です。奮ってご参加ください。

【日程】 2016年6月20日(月) 15:10~16:40 & 17:00~18:30 / 24日(金) 15:10~18:30
※ 6月20日(月) は「舞踊ゼミ」「身体表現論」特別授業として開催します。一般の方の参加も可能です。

【場所】 神戸大学発達科学部 身体表現スタジオ (F164-1 / F棟1階)

【対象】 神戸大学生の他、身体表現・ダンスに関心のある学外者のご参加も歓迎いたします。

【料金】 無料

【企画・申込・問合せ】 関典子 (人間発達専攻 表現系 准教授) n-seki@pegasus.kobe-u.ac.jp

※ お申込は、メールの件名を「工藤聡クラス申込」として、「氏名・年齢・所属・電話番号・メールアドレス・希望日時」を、関までお送りください。

※ お送りいただきました個人情報、本企画の運営管理の目的にのみ利用させていただきます。

モーション・クオリア Motion Qualia

工藤聡が2005年から研究し、自ら考案した「モーション・クオリア」は、身体と物理学と脳活動の関係を具体化したムーブメント・セオリーです。動くことが振付をなぞることによって行われるのではなく、動かざるを得ない状況をどう作っていくかが、基本的なテーマになっています。

無意識のうちにバランスをとっている感覚を、意識的にずらす小さな動作-「モーション」により、重力に従って身体が自然に落ちていく状態を作り出します。それによって自らの反射神経が、その落ちていく状況を回避するための動き-ムーブメントを生み出します。その生み出された動きは、自分の身体を元のバランスへと戻そうとしていきますが、その動作を常に観察しながら、その状態を連続的にずらし続けることによって、動きが連続したもの-ダンスが創られていきます。そして、この常にオフ・バランスである状態により、身体が脳に働きかけ、そこから生まれる感情のイメージ「クオリア」によって作品を創作します。

工藤聡 Satoshi Kudo

振付家、ダンサー。ストックホルム在住。名古屋市出身。上京後、宮崎渥巳に師事。テレビ、ミュージカルなどに出演。24歳で渡米、28歳で渡欧。オハッド・ナハリン、ディニッシュ・ダンスシアター、シディ・ラルビ・シェルカウイらの作品に出演。2006年から2013年までシェルカウイのアシスタントとしても活動し、首藤康之出演『Apocrifu』、少林寺武僧出演『SUTRA』、森山未來出演『TeZukA』、ベルリン国立劇場およびミラノ・スカラ座でのバレンボイム指揮オペラ『ジークフリード』『神々の黄昏』、シルク・ドゥ・ソレイユのラスベガス公演『マイケル・ジャクソン-ONE』など、数々の作品にシェルカウイ・クリエイティブチームとして関わった。その他、ヨーロッパ在住の伊藤郁女や大植真太郎、愛知県では平山素子とのコラボレーションも実施。2015年はスウェーデン王立バレエ団にリハーサルディレクターとして所属。ヨハン・インガー『春の祭典』、アレクサンダー・エックマン『真夏の夜の夢』、マッツ・エック『白鳥の湖』などを担当。現在はフリーランスとして、振付・ソロ公演活動を行っている。

フロアワーク Floor Work

このクラスは床を滑ったり転がったりしますが、これはゴツゴツと身体を床にぶつけるものではありません。自分のイメージの中で、床の下に水中のような空間を想像し、そこへ自分の体重や、動きの勢いをどう分散させ、またそこから再燃エネルギーをどう生み出すかを勉強します。これにより、ただアクロバティックなダンスになるのではなく、潜るように、泳ぐように踊ることが出来ます。

「モーション・クオリア」の中から、落下と振り子のセオリーを使用することにより、立ち上がったり、床に吸い込まれるような動きを自由自在にします。

* 初心者の方はニーパッドを使用すると、怖がらずにレッスンできます。